



お茶の間PRESS

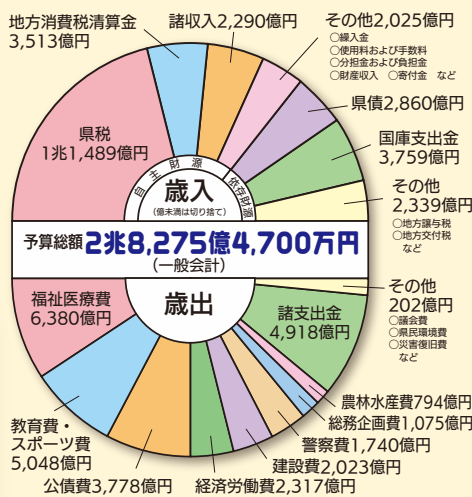
愛知県議会

さらに大きく前進！

今年、愛知県政150周年

愛知県の2022年度予算がスタート！

令和4年度県予算のポイント



企業収益は回復するも、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には戻らず

2022年度の県税収入は前年度から957億円増の1兆1,489億円。法人二税は、企業収益の回復を反映し965億円の増加するものの、県税全体では新型コロナウイルス感染症の影響が拡大する前の2020年度当初予算水準（1兆1,669億円）を回復するには至っていない。県税に特別法人事業課与税1,306億円を加えると1兆2,795億円となり、前年度から1,454億円の増収。

新型コロナウイルス感染症の「克服」と、日本の「成長エンジン」としての予算を計上

新型コロナウイルス感染症対策に係る経費を1,920億円（うち一般会計1,918億円）計上するとともに、来年度から団塊の世代が75歳以上の高齢者となることなどに伴い医療・介護などの扶助費が増加し3,101億円に。さらに、ジブリパーク整備や愛知県基幹的広域防災拠点整備など、新たな愛知県の魅力や安心・安全をつくりだすプロジェクトのための予算を確保。

新型コロナウイルス感染症の克服

県民生活への対策

- SNS等を活用した相談の実施
- GIGAスクール構想の推進のための民間学習支援サービスの活用
- 中小企業におけるスクール・サポート・スタッフや学習指導員の配置への支援

感染拡大防止や医療面の対策

- 医療機関の病床確保や宿泊療養施設の運営
- ワクチン接種の推進
- PCR検査体制の充実・確保、ニューあいちスタンダードの促進

経済対策

- 中小企業の資金繰り支援
- プレミアム商品券発行事業等への支援
- 雇用・労働問題への対応



With/Afterコロナを見据えた成長戦略



STATION Aiの外観イメージ

●人を呼び込むための社会インフラの整備と仕掛けづくり

- リニア中央新幹線の整備促進、名古屋駅のスーパーターミナル化の推進
- 中部国際空港の将来構想の推進
- 国際展示場を最大限活用した展示会産業の振興
- 2026年に開催予定のアジア競技大会の開催準備
- 2025年夏のオープンに向けた新体育館の整備
- 官民におけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進
- カーボンニュートラルの実現に向けた取組



愛知県新体育館外観イメージ

いよいよオープン！

I 2022年11月1日開園の3エリア

2020年7月に着手した整備工事が本年5月に完了し、引き続き展示・演示工事を行なう。

①青春の丘 (約0.8ha)



映画『耳をすませば』に登場する「地球屋」、『ロータリー広場』、映画『猫の恩返し』に登場する「猫の事務所」を整備する。また、既存のエレベーター施設を改修し、映画『天空の城ラピュタ』や映画『ハウルの動く城』などの世界観を想起させる19世紀末の空想科学的要素を取り入れた内外装とする。

②ジブリの大倉庫 (約0.8ha)



「倉庫」らしさと懐かしさを感じる和洋折衷の建築空間をイメージし、展示室、子どもの遊び場、売店と喫茶、収蔵施設等を整備する。

ジブリパーク整備の内容

愛・地球博記念公園 (約194ha)



③どんどこ森 (約1.8ha)



映画『となりのトトロ』の「サツキとメイの家」を中心とした昭和の田園風景をイメージし、映画の世界観がより身近に、より深く感じられ、子どもも楽しめるような遊具や散策路等を整備する。

II 2023年度中に開園予定の2エリア

2021年7月から整備工事に着手済、引き続き整備工事を行うとともに、展示・演示工事に着手する。

④もののけの里 (約0.8ha)



映画『もののけ姫』のエミシの村とタタラ場をもとにした和風の里山の風景をイメージし、「タタラ場 (体験学習施設)」、「炭焼き小屋」、休憩処等を整備する。

⑤魔女の谷 (約2.9ha)



映画『魔女の宅急便』、『ハウルの動く城』などの北ヨーロッパ風の空間をイメージし、「オキノ邸」と庭園、「ハウルの城」と荒地、レストラン棟等を整備する。

新政あいち

2022.6 発行

編集／発行 高橋正子事務所
一宮市大宮 1-3-6 グランドメゾン大宮 1F
TEL(0586)71-2900

愛知県議会議員 高橋正子 (一宮市選出)

プロフィール

昭和57年3月 愛知学院大学法学部卒業、毎日一宮タイムス編集部に入社
昭和63年8月 一宮タウン情報誌「EGG」を創刊、編集長
平成12年2月 ㈱お茶の間通信社を設立、代表取締役
平成15年4月～ 愛知県議会議員に初当選、現在5期目
■令和4年度所属委員会
○常任委員会／総務企画委員会
○特別委員会／人づくり・福祉対策特別委員会

■愛知県議会議員おもな役職・職務実績
平成19年5月～20年5月 民主党愛知県議員団政務調査会長
平成21年5月～22年5月 愛知県議会健康福祉委員会委員長
平成24年5月～25年5月 民主党愛知県議員団幹事長
平成25年5月～26年5月 名古屋港管理組合議会監査委員
平成26年5月～27年5月 民主党愛知県議員団副団長
平成27年5月～28年5月 産業振興・環境対策特別委員会委員長
平成29年5月～30年5月 名古屋運輸総合協議会議長
平成30年5月～令和元年5月 新政あいち県議団副団長
令和2年5月～令和3年5月 新政あいち県議団副団長

1 「リニア大交流圏」の形成

○道路ネットワークの整備、港湾物流機能の強化
○ICT等の先端技術を活用した「スマートシティ」のモデルとなる市町村の取組

2 産業首都あいち

○水素エネルギー社会の実現、自動運転やロボットなどの革新的技術の社会実装に向けた研究開発・実証実験の支援
○中部国際空港連絡道路における高速走行の実証実験の実施

3 農林水産業の振興

○「あいち花マルシェ 2022(仮称)」の開催(11月)、「アルメーレ国際園芸博覧会(オランダ)」に出展
○木の香る都市づくり事業による民間施設等の木造・木質化への支援

4 次世代を創る教育・人づくり

○35人学級を小学校第4学年に拡充
○県立高等学校再編将来構想の推進と新しい公立高等学校入試制度やWeb出願導入準備

5 安心と支え合いの福祉・社会づくり

○児童福祉司、児童心理司の増員による児童相談センターの機能強化
○ヤングケアラーの理解促進に向けたシンポジウム等の開催
○コーディネーターの配置

6 安心できる医療体制の構築

○がん患者のアピアランスケア(医療用ウィッグ等)に対する助成制度の創設
○不妊症や不育症の相談に対する支援強化

7 誰もが活躍できる社会づくり

○中小企業のデジタル人材育成のための研修等を実施
○「愛知県人権尊重の社会づくり条例」の制定、審議会の設置
○「あいち航空ミュージアム」にT-4ブルーインパルスの展示

8 あいちのグローバル展開

○外国人児童生徒に対応する小中学校の教員の拡充
○あいち地域日本語教育推進センターの運営

9 選ばれる魅力的な地域づくり

○FIFA世界ラリー選手権「ラリー・ジャパン」(2022年11月)の開催支援
○県政150周年記念式典の開催(2022年11月27日)、2025年の愛知万博開催20周年記念事業の準備

10 安全・安心なあいち

○「愛知県基幹的広域防災拠点」(名古屋空港北西部の豊山町青山地区)の整備

大規模災害時に全国から支援人員・物資を受け入れ、県内全域に供給する拠点



○ゼロメートル地帯における広域的な防災活動拠点の整備

11 環境首都あいちの推進

○住宅用地球温暖化対策設備や次世代自動車の導入支援
○食品ロス削減に取り組む企業等を認定するパートナーシップ制度の創設

12 東三河の振興

○東三河地域の「新しい人の流れによる魅力と価値」を創造する取組の推進

13 地方分権・行財政改革の推進

○ICTを活用した業務の合理化・効率化

県政【一宮版】

続・一宮ビッグプロジェクト

建設が着々と進む！



一宮市西部に大規模治水工事着手！

木曽川に排水ポンプを整備する

大望の河川施設「日光川2号放水路」

二級河川日光川は、愛知県西部の低平地を流れる河川。河口部では日光川水閘門の改築、中流部では洪水を木曽川へ放流する日光川3号・4号放水路の整備を進めてきたが、上流域の一宮市街地の浸水被害は依然として解消されておらず、日光川2号放水路の整備が必要であり、令和2年度に国の補助事業に採択された。

日光川2号放水路は、野府川、日光川の上流域における抜本的な治水対策となる大規模な河川施設。一宮市地内の野府川と準用河川新丹波川の洪水を流入工で取り込み、木曽川に放流する施設で、一般県道大垣江南線の下に内径5.5メートルの地下トンネル河川と木曽川に排水する排水ポンプを整備するもの。早期に治水効果を発揮するために、流入工と地下トンネル河川を一期工で施工し、河川水を貯留する施設として運用する。その後、排水ポンプを二期工で設置し、木曽川へ放流する運用で、今年の2月から到達立坑の工事に着手。順調にいけば一期工は令和12年度完成予定。



一宮市木曽川町外割田地区

一宮市木曽川町玉ノ井地区

愛知と岐阜を繋ぐ「新濃尾大橋(仮称)」

瑠璃色の橋の完成は2020年代半ばの予定！

濃尾大橋の渋滞緩和と岐阜県との地域間交流を図るため、一宮市と羽島市間の木曽川に新しい橋の整備を進めてきた。橋梁下部工については、既に橋台が2基、川の中の橋脚8基の全てが完成。

橋梁上部工のうち桁架設については、愛知県側と岐阜県側の双方から施工中。令和3年1月頃から開始した愛知県側の桁架設は、今夏には所定の位置に設置される予定。また、岐阜県側は、現在、仮の桁を組立中で、夏頃から桁の送り出し作業を始める予定。

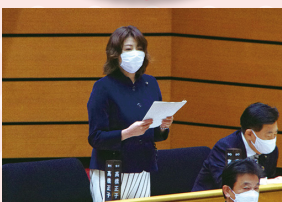
桁架設後には床版工事を行うなど、順調にいけば2020年代半ばに完成予定。



一宮市西中野(令和4年4月現在)

高橋正子の県議会での活動

愛知県議会 2月定例会本会議「議案質疑」

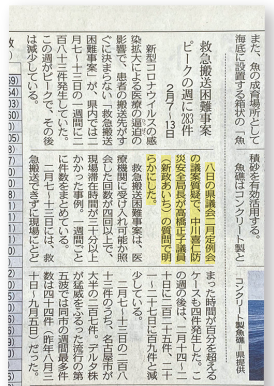


QRコードを読み取ると「本会議録画映像」が見られます。

『コロナ禍における、本県の救急搬送困難事例の現状』について質問しました。

新型コロナウイルス感染拡大による医療の逼迫の影響で、救急患者の搬送先がなかなか決まらない「救急搬送困難事例」が全国的に課題となっている。困難事例の定義は、救急隊が医療機関に受け入れ可能かどうか4回以上照会し、搬送開始まで30分以上かかったケースをいうが、本県の現状についてうかがう。

【防災安全局長】本県の救急搬送困難事例は、2月初旬の第6波ピークで県全体で283件あり、中には現場滞在時間が100分を超えるケースが4件あった。119番の救急業務最前線で活動する救急隊員は、救急搬送先が決まらない中、その間、奮闘しながらも傷病者を目前に病院へ搬送できないことへの申し訳なさでいっぱいになったという。その後、救急搬送困難事例は減少しているものの、本来であればあってはならない数字である。



中日新聞朝刊(3月9日付)に掲載

『児童虐待防止対策』における児童相談センターと、虐待が疑われる受療の医学的判断を行う法医学専門医との連携について質問しました。

本県の令和2年度児童虐待相談件数は6,019件で、被虐待児童の半数近くが就学前までの児童。虐待は家庭内という密室で起きていることから、子供の身体にあざを見つけても、親が「転んだ」と暴力を否定すれば、子どもの保護は困難となる。そうした場合に法医学者の診断が客観的な証拠となるため、法医学者の取り組みは、子どもの命を守る最後の砦だと期待されるが、本県の現状についてうかがう。

【福祉局長】本県では、2002年度から虐待が疑われる傷の医学的判断を法医学専門医師3名に依頼しており、2016年度からの5年間で105件の相談を行なった。虐待の疑いが強いと判断したケースについて、一時保護を行った上で、虐待を否定する保護者に対して指導を行っている。